

日刊 動労千葉

79.6.21 No.152

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄)二三五八・九(公衆)三三三二七二〇七

6.15公労委認知決定

1400名の實力と団結の勝利！

動労千葉は偉大な勝利をもぎとった！ あらゆる反動をはねのけて、實力でもぎりとつた「6・15公労委認知」の事実の前に、革マル派に牛耳られた動労「本部」デマ集団は、今、混乱と消耗の極みにある。われわれは、更に隊列をうち固めて、力強く前進するのだ。

労働基本権確立！二カ月の闘いの経過と教訓は何か

①それは逃げまわる国鉄当局と公労委をギリギリと追いつめた二ヶ月であったといえる。
②四月中旬
③四月下旬 八支部結成・一〇〇名の団結署名をつきつけると、今度は、△国鉄当局▽「公労委が認知すれば……」と別の理由をもち出して不当にも団交拒否せんと逃げまわる。△動労千葉▽△4・26△ノストを構え当局を實力で追い込め、千鉄局より実質交渉権をもぎとる。(4・25確認メモ)
④△五月中旬▽あわてた動労「本部」の反動的横やりで「四時期昇給交渉」を拒否しつづける当
局に決断をつきつけ、5/14地調委あっせん、5/18「昇給交渉」の団交に追い込む勝利をかちとり、以降、「二線高架」「夏季輸送」等、全ての交渉事案の団交を組合側ペースで実現してきている。
⑤六月一五日 引きのばしをはかる公労委を「實力闘争も辞さない」決意で追いつめ遂に「正式認知」を勝ちとる。
⑥六月下旬 この成果にふまえ、ひきつづき、協約・協定権の領域にも闘いを拡大し、前進中。
◎この勝利の核心点は何か。
この二ヶ月の闘いを勝利してきた根拠は何か！
第一に、3・30結成大会でうち立てたわが路線の正義性である。
第二に、動労千葉一四〇〇の一糸みだれぬ団結力と、必要とあればいつでも實力闘争をうちぬく決意と戦闘的實力が最後の彼らのさまざまな妨害をうちくだいたといえる。

更に前進しよう！今こそ二支部結成勝ちよう！

同時に最も重要な教訓の第三は、「本部」デマ集団が最大の口実に使い、妨害工作の糸口とせんとしていた銚子・佐倉・蘇我の未結成三支部で何としても早期結成を実現することである。彼ら反動デマ集団に一指もつけ入るスキを与えず、一四

シリーズ 反動の「サミット」と八〇年代労働運動のゆくえ ④

(4) 反動と暗黒の政治の一挙的強化をねらう 「元号」——サミット治安攻撃

「サミット」を契機に、反動と暗黒の支配体制△天皇制を背景とした戦前型の△が一挙に強められようとしている。六月六日、元号法制化が強行された。天皇制を公然と国民の前に「強制」するこの攻撃は六七年「紀元節」復活を皮切りに、天皇在位五〇年式典、「軍人勅諭」「教育勅語」礼賛発言、日の丸、君ヶ代、そして戦犯の靖国神社合祀、大平の首相としての靖国神社参拝、と相次いだ一連の攻撃の総仕上げを意味しており、「今上天皇」と生活を密

着させ、天皇の名をもって民衆に物事を強制する体制の第一歩である。戦前においては天皇の名をもって朝鮮や中国の労働者・農民を虐殺することまで合法化し、これを拒否するものは「国賊」としてテロルや処刑の対象とされた。今日においても「天皇警備」が一切の規程を越えて超法規的弾圧も許される△「ミニ戒厳令」であることに表わされるように、こうしたやり方と「当り前」と思いこませることが目的とされているのだ。折からの「サミット戒厳令」ともい